

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (松阪工業高等学校 定時制課程)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒一人ひとりが基本的な生活習慣を身につけ、社会生活に適応し、個に応じた自己実現を果たすことを支援する学校 ○生徒の相互理解の精神を育み、相手の立場に立って考える人権感覚を養う学校
(2)	育みたい児童生徒像	○働きながら前向きに学習に取り組む意欲を有する生徒 ○他者を思いやり異なる価値観を受け入れ、協働することができる生徒 ○相手の立場を尊重し、人間関係を大切にす生徒
	ありたい教職員像	○生徒の個性を伸ばし、人間性を高めることを常に意識し、学び続ける教職員 ○生徒の立場に立って考えることができ、生徒の成長を自らの喜びとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒>理解しやすい授業、基礎学力の向上、居心地の良い学校</p> <p><保護者>基本的な生活習慣を身につけること、基礎学力の向上、安全で安心して通える学校</p> <p><進路先>基礎学力がありコミュニケーション力のある人材</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><家庭>子どもや学校の現状の報告</p> <p><中学校>学校の様子と卒業生の近況報告</p>		<p><家庭>学校教育活動への理解と協力</p> <p><中学校>継続的・効果的な指導のための個々の生徒の情報共有</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○学校の取組をSNS等で公開するなど、地域や中学生に本校の魅力を知ってもらえるよう情報発信を進める必要がある。</p> <p>○定時制の生徒が広い視野をもってライフスタイルや職業選択をしているのか検証し、必要なキャリア教育を推進する必要がある。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○基礎学力の取り組みをさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていく。</p> <p>○キャリア教育の充実と、生徒が主体的・対話的に深い学びができるように授業改善に取り組む。</p> <p>○小中学校で不登校を経験している生徒や他校より再入学してくる生徒等、在校生は多様化している。また、生徒の多くが悩みや課題を抱えている。</p> <p>○近年、外国人生徒が増加傾向にあり、令和5年度の外国人生徒の在籍数の割合は62%(29/47名)を占めている。そのため、学校生活の中で、文化の違いやコミュニケーションにおいて困難な場合がある。</p> <p>○日本語に課題のある生徒については、入学時の現状認識から取り組み、継続的に指導を深められるように全職員が情報共有を行い、効果的な指導に取り組むように努める。</p> <p>○外国につながる生徒に対しても、就職時には、会社からは日本語の運用能力が求められる。そのレベルを見据えて、日本語教育を充実させる必要がある。</p> <p>○平素の学校生活においても、日本語を使わずに、母語等で済ませてしまうことも多く、日本語で意思疎通を行う機会を増やす生徒の意識改革必要がある。</p>	
	学校運営等	<p>○生徒一人ひとりに対し、生徒面談や教育相談等、きめ細かな指導体制をとっていく。</p> <p>○個人面談の充実と職員の情報共有を積極的に行い、組織的な指導の向上に努める。</p> <p>○生徒の基礎学力向上と外国につながる生徒の日本語指導力向上のため、ICT教育、JSLカリキュラム等教職員研修の継続と教材の開発を継続する。</p> <p>○生徒は「働きながら学ぶ」「学びなおし」など様々な入学動機を持ち、多様な生徒が在籍しており、個人面談等を密にしながら、個に応じた指導を引き続き丁寧に行っていく必要がある。</p> <p>○少人数の教職員集団によって、多様な生徒の自己実現に向けて、いかに適切な対応をはかるかが大きな課題である。</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導の充実・基礎学力の定着より、苦手意識を克服し、主体的に学びに向かう態度を身につける。 ○日本での生活期間の短い生徒が日本の社会で将来活躍できる資質・能力を育むため、日本語の指導や日本で生活するために必要な社会性を習得するカリキュラムを編成する。 ○他者を理解し、相手の立場になって考える素養を磨くため、多様な人とかかわる学習を実施する。 ○コミュニケーション能力の向上、職業選択能力や、勤労観・職業観を持つことができるよう、発達段階に応じたキャリア教育を推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に提供する授業内容を充実し、基礎学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業公開や授業研究などを行うことにより授業改善をすすめる。特に、生徒自身の主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを進める。 ○教職員が相互に学び合い高め合うことで資質能力を向上させ、学校の組織力を高める。 ○職員の総勤務時間の縮減に取り組むとともに、業務全般について時間管理を意識した効率化を進め、生徒も職員も生き生きとした学校を目指す。 ○多様な生徒への適切な指導・助言ができるような校内研修を定期的に行い、教職員の資質向上を図る ○風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。

4 本年度の行動計画と評価

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>(1) 学習意欲の向上・授業を大切にしている意識づけのための取組み</p> <p>【活動指標】遅刻や欠席の減少</p> <p>ICT 機器を活用した授業の拡充</p> <p>【成果指標】年間授業出席率70%（全体）以上</p> <p>授業以外の行事への参加率80%以上</p> <p>(2) 日本語指導が必要な生徒に対する取組</p> <p>【活動指標】毎回の授業で日本語の基礎力を高める課題を実施。</p> <p>必要な課外授業の実施。</p> <p>日本語能力をはかる試験を学期ごとに実施。</p> <p>【成果指標】全員が日本語能力試験N5レベル問題を70%以上</p>		
生徒指導	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立を支援し、社会生活への適応を図るとともに、道徳教育や人権教育をはじめとする教育活動全体を通じて、命を大切にしている教育を行う。</p> <p>(2) 三重県いじめ防止条例に基づき生徒が主体的かつ自主的に行ういじめの防止に資する活動の支援。</p> <p>【活動指標】学校生活アンケートを3回以上実施</p> <p>SNS 等の適切な使い方に関する指導を実施</p> <p>担任から生徒個々への声かけ1回/週</p> <p>【成果指標】問題行動による指導件数3件以下</p> <p>中途退学者3名以内</p>		
教育相談 保健指導	<p>健康で安全な生活の実現を目指した教育の実施</p> <p>【活動指標】教育相談員の積極的活用</p> <p>健康診断の受診徹底と欠席者への受診機会の確保</p> <p>【成果指標】教育相談の件数50件以上</p> <p>内科検診、眼科検診、尿検査の受診率100%</p> <p>保健だよりの発行件数5回以上</p>		

進路指導	生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学業と労働の両立をはかり、生徒が希望する進路先への進学・就職を実現 【活動指標】 アルバイト等の就労の奨励・推進 発達段階に応じたキャリア教育の推進 【成果指標】 就職を希望する生徒の内定100% アルバイト等に従事する生徒の割合70%以上		
改善課題			

(2) 学校運営等

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上 危機管理 組織力向上	(1) 資質向上・授業改善 教員の力量を高め生徒の実態を的確にとらえた個に応じたわかりやすい授業の実施 (2) 生徒が1人1台端末を活用した学びを確立するためのコンテンツの提供やICT機器を介した教員とのやり取りの機会を創造。 (3) 生徒・職員が災害に対する知識を身につけ、命を守る行動がとれるような資質を養う (4) 危機管理マニュアルを見直し、災害時等に適切な対応ができる体制の整備 (5) 松阪工業高等学校定時制の地域への広報 【活動指標】 授業研究を3回実施。 授業公開5日以上実施 【成果指標】 ICTを活用した授業ができると回答した教員100%		
働きやすい 職場づくり	(1) 学年・分掌の協力体制を強化し、必要な生徒の情報共有を活発に行うとともに風通しのよい職員集団をつくり、不祥事防止のための研修を行います。 【成果指標】 年間10回以上 (2) 労働時間の適正化に努め働き方改革を進める。 【成果指標】 休暇の平均取得日数年 20日以上 月平均時間外労働の削減（5時間以内） 定時退校日（金曜日）に定時に退校できる職員の割合100% 校内会議を60分以内に終了する割合90% 360時間/年及び45時間/月を超える時間外労働時間の人数0人		
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
校運営についての改善策	

